

2019年4月28日(日)朝10:10~
4月第4教会総会共同主日礼拝式説教
復活節第2、教会定期総会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：岩の上に家を建てた賢い人

聖書：マタイ 7章24~27節

<口語訳>

新約聖書12頁

マタイ 7章24~27節

<新共同訳>

新約聖書12頁

マタイ 7章24~27節

<新改訳第3版>

新約聖書12頁

マタイ 7章24~27節<塚本訳>

新約聖書85~86頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論：

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ7章24～27節**は、5章から始まった山上の説教の結びの部分で、特に、**マタイ7：13～27**は、①狭い門、②実によって木を知る、③あなたたちのことは知らない、④家と土台まで、4つの区分です(新共同訳)。

⇒総会の後、次の主目に**マタイ6：16～18の断食**を扱い、6月16日の主日まで、**マタイ7：1～23と28～29**を扱います。

◇本日は、教会総会で、年次聖句**マタイ5：10**の結びの部分からメッセージに聴きます。

⇒「家と土台」が主題ですが、「**ああ幸いだ、信仰のために迫害される人たち、天の国はその人たちのものとなるのだから。**」(5：10)、「**信仰のために迫害される人たち**」には、「**天の国**」が、用意されていると語られています。

⇒**マタイ7：24～27**は、「**神のことばに聞くことを土台**」とする者は、「**神の教会・復活を信じる群れ・兄弟愛の建設**」です。

本論；

◇本日、マタイ書7章24～27節から主の使信に思い・心をとめます。

◆マタイ7章24～27節；使徒マタイは、神の御子イエス・キリスト様の祝福のことば・神信仰の土台を語っています。

◇24～29節；塚本訳◆岩の上と砂の上
「24 だから、以上のわたしの話を聞いてそれを行う者は皆、岩の上に家を建てた賢い人に似ている。

25 雨が降って、大水が出て、風が吹いて、その家に襲いかかったが、倒れなかった。岩の上に土台があったからである。

26 また、わたしの話を聞くだけでそれを行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。

27 雨が降って、大水が出て、風が吹いて、その家にうちつけると、倒れてしまった。ひどい倒れ方であった。」と、使徒マタイは語っています。

◇24節；「だから、以上のわたしの話を聞いてそれを行う者は皆」、「岩の上に家を建てた

賢い人に似ている」、「岩の上に家を建てた賢い人に似ている」と、「御子イエス・キリスト」は、「**神信仰の土台**」が、大事であることを比喩で語られました。

⇒**OA師**は、「人がこのわたしと出会ったところから二筋道が別れて、生と死が決まる(13, 14)。このわたしから預言が復活する。そう、イザヤやエレミヤ以来絶えたはずの“生の”神の言葉が世に臨んだ(15-20)。このわたしを主と仰いで服すること以外に信仰はない(21-23)。このわたしが話した内容と意図を確実に受けとめることができなければ、生きたこと自体が無駄に消える(24-27)。」と、「門と道の話とそれに続く4つの説話の趣旨」として、語っておられます。

⇒「**だから、以上のわたしの話**」は、「イエスの事業の最後の仕上げ、死と復活がその全部の結論になっていることは無論で」、「わたしがあなたのために十字架へ行くことと、あなたを生かすために復活することとを『これらの言葉』(24: 新共同訳)の結論と受けとめよ」と、**OA師**は仰せです。

◇25～27節；「雨が降って、大水が出て、風が吹いて、その家に襲いかかったが、倒れなかつた。岩の上に土台があつたからである」、「わたしの話を聞くだけでそれを行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている」、「雨が降って、大水が出て、風が吹いて、その家にうちつけると、倒れてしまった。ひどい倒れ方であった」と、「御子イエス・キリスト様」は、語られます。

⇒「雨が降って、大水が出て、風が吹いて、その家に襲いかかったが、倒れなかつた。岩の上に土台があつたからである」と、「雨」と「大水」は、「わたしが来た今、本当の人間として豊かな命を持つか、滅びの洪水に流されるか、すべてはわたしの言葉にかかる。わたしの言葉はそれくらい重いものだ」という「御子イエス・キリスト様」の断言の言葉であると、OA師は仰せです。

⇒主の教会は、「岩ある御子イエス・キリスト様」と「そのみことば」が、「岩の上に土台」で、その上に建てられています。

⇒総会は、教会建設の確認と確認の場です。

結論：

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ7章24～27節は、5章から始まった山上の説教の結びの部分で、特に、マタイ7：13～27は、①狭い門、②実によって木を知る、③あなたたちのことは知らない、④家と土台まで、4つの区分です(新共同訳)。
⇒総会の後、次の主日にマタイ6：16～18の断食を扱い、6月16日の主日まで、マタイ7：1～23と28～29を扱います。
- ◇本日は、聖句マタイ5：10の結びに聴きます。
⇒「家と土台」が主題ですが、「ああ幸いだ、信仰のために迫害される人たち、天の国はその人たちのものとなるのだから。」(5:10)、「信仰のために迫害される人たち」には、「天の国」が、用意されていると語られています。
- ⇒マタイ7：24～27は、「神のことばに聞くことを土台」とする者は、「神の教会・復活を信じる群れ・兄弟愛の建設」です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。

⇒「心の貧しい者の幸い」から「雨が降って、大水が出て、風が吹いて、その家にうちつけると、倒れてしまった。ひどい倒れ方であった」まで、「御子イエス・キリスト様」は、「雨」と「大水」で流す災害を通して、すべての終わりを見せておられるのです。その後に何が残るかを問い合わせておられます。

⇒「神の御子イエス・キリスト様」は、十字架の死が待っていることを知つておられたので、「わたしが来た今、本当の人間として豊かな命を持つか、滅びの洪水に流されるか、全てはわたしの言葉にかかる。わたしの言葉はそれくらい重いものだ」という断言の言葉を用いておられると、OA師は仰せです

⇒「御子イエス・キリスト様」は、「主ご自身の羊の群れ」とともにあり、「主ご自身のいのち」を犠牲にしてでも、「主ご自身の羊」を守つて下さるお方です。

⇒「滅びの洪水」でも、主は身を挺されます。